



薩長同盟 (密約) 提案書

この俥では日本は滅びつ

坂本 龍馬

Imaged by Takenori Komatsu

薩長同盟ご提案の理由

- 一、現在の幕藩体制では欧米列強からの侵略に
対向できない。
- 二、幕府が米国と不平等な
日米修好通商条約を結んだ事

(アメリカ側に領事裁判権を
認め、日本に關税自主権が
無かつたことなどから、
一般に不平等条約と言われり)

Treaty of Amity and Commerce between Japan and the United States 29 July 1858.

*photographed at Japan
Foreign Ministry Archives*

三、幕府は、これと同様の条約を

イギリス・フランス・
オランダ・ロシアとも結んだ

(安政五カ国条約)

File:Treaties of Amity and Commerce between Japan and Holland
England France Russia and the United States 1858. jpg

四、徳川幕府が朝廷との約束である
尊皇攘夷（天皇を尊び、外敵を
退ける思想の意）を外交圧力に
屈して、執り行わなかったから。

五、文久三年八月十八日の政変で

*"Battle scene from the Hamaguri Gate Incident of 1864, Kyoto, Japan",
an ukiyo-e print by Tazaki Morio, based on a drawing by Gensai Nishikawa.
LOC description: Ukiyo-e print illustration showing a burning building
and people fighting.*

京都から追放された挙句に禁門
の変、第一次長州征討で朝敵と
なり孤立化した長州藩は倒幕の
為の戦力になつて武器が欲しい。

毛利家家紋一文字三星文字紋。

六、兵糧米が不足していつ薩摩藩は、
此れの十分な補充に加えて、
倒幕に向け、意を同じくした
同志たる政治的かつ軍事的な
同盟を組め味方が欲しい。

丸に十字は、日本の旧紋「小宮家紋」の一種（小宮家紋の「丸に十字」）と同図案である

第一義

坂本龍馬

七、右申所の姦吏を一事に軍いたし

打殺、日本を今一度せん

致し申し候 (六月二十九日付)

(異国と内通する墮落した幕府

の官吏を打ち殺す事の意)

This manuscript is the handwritten draft of proposed reforms by two prominent pro-imperial activists from the Tosa Domain (now Kochi Prefecture), Kamamoto Ryūma (1836-67) and Gotō Shōjirō (1838-97), written in 1867 in the latter part of the Edo period, before the Meiji Restoration in 1868. In this document, Ryūma and Shōjirō proposed an eight-point program of political and administrative reforms to be undertaken by the new imperial government after the expected resignation of Tokugawa Yoshitaka (1837-1893). The proposed reforms included enactment of new fundamental laws, recruitment of capable people to government service, establishment of diplomatic relations with foreign powers, and establishment of a parliament and of a headquarters for the army and the navy. Political and government (明治32年3月4日法律第39号。最終改正昭和44年法律第82号) 1899年 (明治32年) 7月15日施行。1971年 (昭和46年) 1月1日廃止

此れにより、日本の未来を託すに
値しない形骸化した江戸（徳川）
幕府の体制を滅亡させ新たな日本を
再生させるためには、新政府に拠る
政権の樹立が必要不可欠である。

組み合わせ柳に桔梗

Crest of Bellflower (Ky?
ma Sakamoto's Crest)

薩長同盟に拠つ勢力の増強

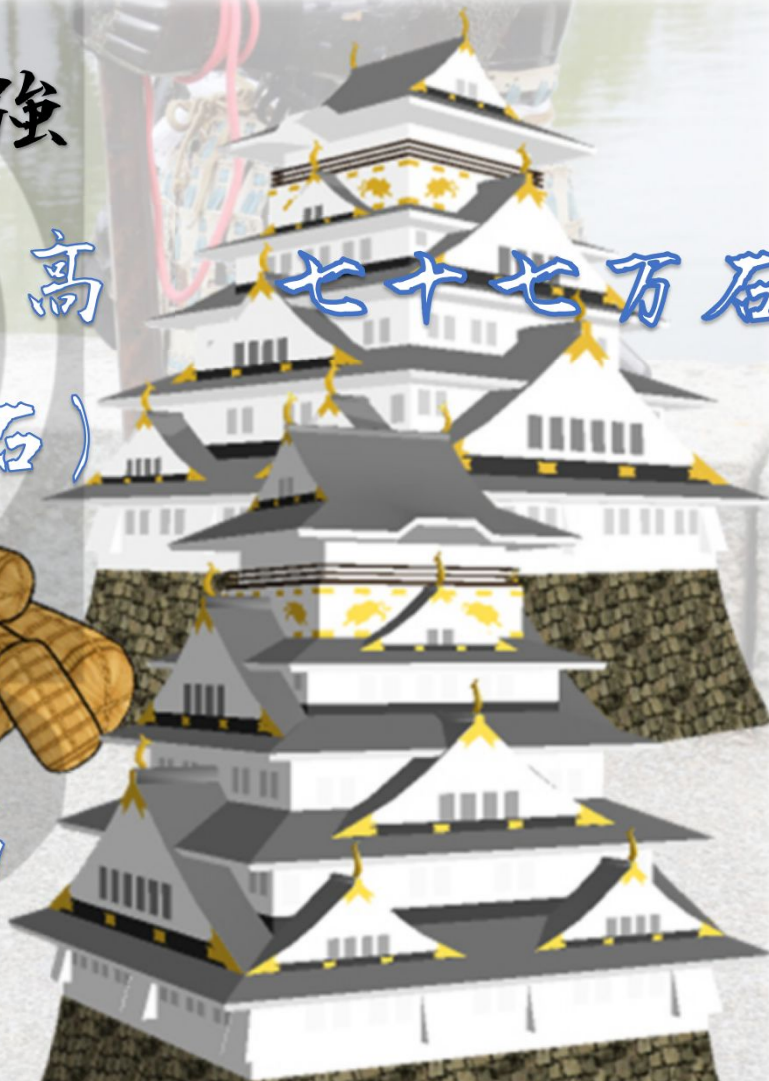
薩摩藩 兵力 15,012人 石高 七十七万石

(実質三十五万石)



長州藩 兵力 48,284人 石高

九十七万石



対する江戸幕府の勢力

兵力 十五万人以上

石高

八百万石以上



薩摩藩

公武合体の立場から幕府の
開国路線を支持しつつ、
幕政改革を求めた。

長州藩

急進的な破約攘夷論を
奉じて反幕的姿勢を強める

両者は容易に相いれない立場

(明治32年3月4日法律第39号、最終改正昭和44年法律第82号)
1899年(明治32年)7月15日施行、1971年(昭和46年)1月1日廃止

麻次正持 (Tokonami Hisayoshi) 1842?1897 - 1897 painting

だが、日本を変えゝ志は同じ

戦力、石高では薩長両藩併せても
江戸幕府に遠く及ばないが戦略を
練れば倒幕も出来ゝ筈だ。



薩長同盟

会談の御案内

慶応二年一月八日

小松帶刀邸（京都）

第一回目 薩長会談

薩摩藩 西郷隆盛氏

長州藩 木戸孝允氏

一月二十日

坂本龍馬氏 京都着

（個別面談あり）

一月二十一日付

薩長同盟を締結す

薩長同盟、提携六ヶ条



(解説: 注文) 田中作樂法 [1] (明治32年3月4日法律第39号、商標法第44号法律第82号)
1899年(明治32年)7月15日施行。1911年(昭和46年)1月1日廃止。

https://www.prof.kagoshima.jp/ab23/raimeikan/jonohsa/bumou/history/meiji/Kps06_s2_1.html

本居老忠肖像(本居老忠、1833年~1877年) 田中丁撮影
1889日本内閣新聞KENSEI 150nanshi (幕府50年史)

薩長同盟

盟約覚書 六ヶ条

筆

木戸孝允（桂小五郎）

慶応二年

一月二十三日付

裏面 朱筆返信

坂本 龍馬

同二年 二月五日付



一、長州で幕府軍
との間で戦いと
なつた時には薩摩藩
は、すぐに二千余り
の兵を京に出し、
今の在京の兵と
合わせて大阪にも
千人ほど出兵し、
京都大阪の両地域を
固めつ事。

一、戦で、長州の
勝利が見えた時に
は、長州の政治的
復権のために
薩摩藩は朝廷に
申し出る様に尽力
すること。

一、万が一、

長州の敗色が濃く

なつた場合でも

一年や半年で壊滅

するようないことは

ないので、

その間、薩摩藩は

必ず尽力し

協力すること。

一、幕府軍が東へ
帰った時は
薩摩藩は朝廷に
申し上げて、
すぐに長州藩の
無実の罪が
解かれよう様に
尽力する事

一、薩摩が第一條に
より、
京に近い国々に
出兵して圧力を加え
た上でも、
京の政權を
制圧していつ
一會桑政權が現在の
ように朝廷を
牛耳つた上で薩摩側
の要求を拒み
その道を、さえぎつ
時は最終的に
彼らとの軍事的対決
に至つて覚悟以外は
無い事を長州に対し
表明すつ。

一、無実の罪が
解かれた上は、
薩長両藩は誠意を
もつて協力し合い
今日より双方は
皇国のため、
天皇の威光が輝き、
回復すつことを
目標に誠意を
尽くして
尽力すつこと。

坂本龍馬 返信

書簡に記入された、
薩長同盟6カ条は、
小松帶刀、
西郷隆盛の両氏
および木戸孝允、
龍馬も同席して
話し合つた内容
なので九牛の一毛
ほども、これと
相違ない。
将来に渡つて
決して変わる事が
無いのは、
天地神明に誓う所
であつ。

それではファイルデータの、ご確認と二十一日
の御出席を心より、お待ちしております。奉り候。



明治新聞 111 (明治32年3月4日発行第39号、明治新聞社昭和40年出版第32号)
1917年(明治32年)1月15日発行、1917年(昭和40年)1月1日出版
昭和40年【昭和新聞一周年特刊】



水戸藩士肖像(水戸藩史、1833年~1877年) 田付丁撮影
1869年水戸藩KENSEI 7150nenishi (藩政50年史)



https://www.prof.kugoshima.jp/ab23/rimeikan/jose/history/mu/ji/8ps06_s2_1.html